The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	巻頭言　サイバーメディアフォーラム no.12
Author(s)	中野, 博隆
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2011, 12, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70310
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

巻　頭　言

サイバーメディアセンター
センター長　中野　博隆

この8月26日からサイバーメディアセンター長に就任しました。ここでは、サイバーメディアセンターを取巻く状況が大きく転換する中で、どのようにセンターを運営していくべきか、広報とのかかわりも含めて述べ、巻頭言にかえさせていただこうと思います。

サイバーメディアセンターは学内外に情報基盤を普及させることを最大の使命とし、高性能計算機、教育用計算機、コースマネジメントシステム、学内ネットワークなどの構築・運用・普及に貢献してきました。また、文部科学省から学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点の認定を受け、平成22年度から正式に活動を開始しています。

共同利用・共同研究拠点の活動理念は大学の枠を超えた高い所にあり、今後の最も重要な活動になると思っています。特に学内外の研究者・サービス利用者の視点を尊重することが大切と考えています。現在の施策を推進するとともに、長期的な観点からも有効なサービスを提供していけるよう、日頃からサービス提供のあるべき姿を、原点にもどって考えていきたいと思います。

サイバーメディアセンターが提供するサービスを高度化し拡大するには、利用者と提供者からなるコミュニティを尊重し、活性化を図ることが重要と思います。従来から、サイバーメディアセンターは地域や利用者の核となるコミュニティ支援活動を行ってきました。今後は、他大学や企業などの同種サービス提供者との連携など、従来の枠を超えてコミュニティの拡大に取り組むべきと考えます。例えば、大阪大学は国立情報学研究所が提供する大学間ネットワークSINETにおいて、関西地区のノード校としての役割を担ってきました。システム更新に伴い、ノード校としての役割は終わる方向にありますが、地域支援の役割は形を変えて要求され続けると理解しています。

全学的な要請として、IT化による業務の効率化があります。これからの大学経営に無くてはならない施策です。ここに、サイバーメディアセンターは情報基盤の普及を促進する立場から、様々な面での支援が行えると考えます。例えば、共通的に提供することにより経済化が図れる情報基盤システムの提案、セキュリティ維持のための制度設計など多くの施策に関係することができます。これらの施策は、大学本部、情報基盤本部、各部局、附置研、センターと一丸となって進めていく必要があります。そのために、組織間の円滑なコミュニケーションを図りつつ、IT技術力に立脚した仲介者となる覚悟です。

サイバーメディアセンターは研究の最前線を担う教員が各種ITサービスにも貢献しているところが最大の特徴です。引き続き、この特長を最大限に活かすべきと考えます。例えば、産学連携の活動においては、サービス提供を通しての知見が研究に活用できます。即ち、利用者の声を反映して研究を深化させることが可能です。研究とサービスを連携する際に、両者を繋げる広報の機能が大切であることは明らかです。なぜなら、サービスの本質は利用者にあるからです。このような研究の原点を忘れないようにしたいと思います。

大学内外の状況に鑑みても、サイバーメディアセンターの真価が問われる重要な時期に来ていると思います。このような重要な時期にセンター長を拝命することは身の引き締まる思いがします。サイバーメディアセンターが大学のために有効な機能を果たせるよう、常に初心に返って進めたいと考えています。

最後に、皆様がサイバーメディアセンターとともに益々発展されることを願いながら、センターへの応援をお願いして巻頭言とさせていただきます。